

「平成30年度新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョン懇談会」会議概要

1 日 時：平成31年2月18日（月）午後2時～午後3時40分まで

2 会 場：本庁舎5階 会議室501

3 出席者：桑原会長、高澤（誠）委員、加藤委員、鈴木委員、田中（正）委員

【事務局】新発田市みらい創造課：山口課長、小林課長補佐、山田係長、鈴木主事、伊藤主事
胎内市総合政策課：小熊課長
聖籠町総務課：高橋課長、渡辺主事

4 会議概要 ※次第に沿って進行 司会進行：事務局

○開会

※事務局から説明（委員の交代の報告、資料確認）

○あいさつ

○議事

「(1) 平成30年度連携事業の進捗状況等について」

< I 生活機能の強化 >

【事務局】

※「I 生活機能の強化の取組」の進捗状況について説明

【会 長】

※委員からの意見聴取

≪No.1「子育て応援カード事業」について≫

【委 員】子育て応援カードを活用させていただいているが、カードは長期間使うものなので、もう少し丈夫な素材だと嬉しい。

【事務局】ご意見を担当課へ申し伝え、改善していきたい。

≪No.2「赤ちゃん駅整備、マップ作成事業」について≫

【会 長】圏域の住民から「この辺りに赤ちゃん駅の整備をしてほしい」といった要望はないのか。

【事務局】新しい公共施設では、授乳やおむつ替えの設備が整備されているため、住民からの要望はない。

【会 長】住民から要望が出ていないのであれば、少し様子を見て、今後どのような形で実施していくか、見直しをする必要があるかもしれない。

≪No.4「図書館相互利用推進事業」について≫

【委 員】本事業の成果指標には、三市町の合計の利用登録者数と貸出利用者数が設定されているが、例えば聖籠町の住民で、新発田市の図書館を利用している人数は把握しているのか。

【事務局】図書館では把握している。

【会 長】成果指標の数値が上昇した原因として、住民の登録者数の増や、利用者数が増えている可能性もある。余裕があれば、圏域内でどの程度人が行き来しているのかをデータとして把握し、分析することも良いのではないか。

≪No.5「新発田市、胎内市、聖籠町広域観光圏づくり推進事業」について≫

【委 員】オーナー制度について、国内で詐欺の事件が発生しているようなので、安心・安全な仕組みを作っていただきたい。

- 【事務局】この取組は、台湾在住の方を対象に「米づくりのオーナーになりませんか」とアプローチを行うもので、自治体での実施は全国初である。詳細についてはこれから検討を進めるが、行政がオーナーと農家の間に入ることで、信頼できる仕組みにしていきたいと考えている。
- 【委員】お米に関しては、信頼できる業者に依頼して進めている。今は、主に国内の供給が不足してきている外食産業用として米の輸出を行っているが、徐々に米の値段が折り合わなくなってきたことや、需要と供給のバランスの変動が激しく、先が読めない現状がある。また、米以外の食料品についても輸出を試しているが、小ロットで輸出すると価格との折り合いが難しいこともあり、成果には繋がっていない。
- 【委員】輸出に関しては、補助制度や施策が短期間で変わるため、農家は目に見えないところで苦勞している実態がある。一方で、J A北越後においても、転作の一つとして、高収益作物である輸出米や加工米への誘導や、生産者との個別相談会等を実施しているが、今後どうなっていくかは不透明である。
- 【会長】大型の企画を行う際には、長期的な政策を打ち出してもらった必要がある。輸出に関しては米以外の魅力を見つけることも課題であるし、インバウンドに関しては、四季を通して魅力を発信することが課題である。今はゴルフ三昧プランがメインになっているが、冬の魅力もある。大型でなく、家族単位で楽しめる良いスキー場も多いので、スキー場の利用についても今後の課題として検討していただきたい。
- 【委員】昨年、イギリスの高校生がホームステイに来て、生活の「不便さ」や自然をととても喜んでいたので、「不便さ」は意外と観光の事業に使えるのではないかと思う。例えば、田植え体験も考えられるのではないか。
- 【会長】米のオーナー制度を実施する際に、オーナーの方に来ていただき、稲の成長に応じて様々な体験をしてもらうツアーを実施しても良いのではないか。
- 【委員】都会が便利になり過ぎているので、それを超えるものは「不便さ」ではないかと思う。
- 【会長】旅行することは、日常生活から離れて別のところに行くということであり、例えば、雪がないところの人に雪のあるところに来てもらう、日頃したことのない体験をしてもらうなど、「不便さ」はそういった発想の転換であると言える。
- 【委員】例えば、そのまま「不便さ」を体験してもらうことで、外国人の方の「空き家のオーナー制度」があっても面白いのではないか。

《No. 6「広域連携農産物等販売促進事業」について》

- 【委員】三市町で生産している農産物は確かに似通っていると思うが、市内で作っている同じ野菜でも作る場所によって味が違う。販売するとき、対面でのPRに加えて試食ができると、同じ野菜でもそれぞれの土地の良さを伝えられるのではないか。

《No. 9「無料法律相談事業」について》

- 【委員】この事業で、一番多い相談内容を把握していたら教えてほしい。
- 【事務局】具体的な相談内容については、個人情報関係で、担当課のみで把握している。
- 【会長】例えば、お金の問題や結婚の問題、遺産の問題など、大きな枠組みで相談内容を把握してみるのも良いかもしれない。
- 【事務局】今後、大きな枠組みで提供できる情報があれば、提供したい。
- 【委員】現在、委託を受けて本相談事業を実施しているが、今は相談しやすい環境を確保するために、一切、相談内容がわからないようにしている。ただ、現在のやり方が良いのかは議論の余地があると思う。

＜Ⅱ結びつきやネットワークの強化＞

【事務局】

※「Ⅱ結びつきやネットワークの強化に関する取組」の進捗状況について説明

【会 長】

※委員からの意見聴取

＜No. 17「各スポーツ大会等の合同開催」について＞

【委 員】新発田市、胎内市、聖籠町を通る 42.195 キロマラソンの大会があれば良いと思う。胎内市が行っている「たいない高原マラソン」は新潟マラソンの1カ月前ということもあり、ウォーミングアップで参加する人や他県等からの参加者も多い。また、マラソンに参加してカップルになった人もいる。県内では、42.195 キロのマラソンはそれほど多く開催されていない。三市町であればコースも取れるのではないかと思う。

【会 長】本事業は、既存の取組があるので連携しやすいと考えていたが、各取組に歴史があるために、逆に、これまでのやり方を変えることが難しい状況である。既存の取組はこれから関係者が検討を進めるということだが、新しい取組を始める方が、実現は早いかもしれない。マラソンは適切なルート設定は必要だが、開催にあまり費用もかからず、多くの人を訪れるのではないか。

【委 員】マラソンの参加者は、宿泊代やお土産の購入代など、地域に落とすお金がとても多く、参加年齢の幅も広い。既存の取組を丁寧に見直すことも大事だが、三市町で連携しているからこそできる取組を実施してはどうか。

【会 長】都会とは違う自然や食べ物、温泉なども、リピーターを増やす「きっかけ」になるのではないか。地元の人にも関わってもらうなど、都会的ではないマラソン大会の方が良いかもしれない。この提案は良いアイデアだと思う。

【委 員】今回はマラソンについて提案したが、三市町で連携して取り組めるような良い取組が他にもあると思うので、検討してほしい。

＜No. 18「婚活支援事業」について＞

【委 員】この事業の影響は大きいと思う。最近、私の周りでも子連れの40代、50代が再婚ブームになっている。また、今の若い人達は堅実な考え方をしているようなので、1対1で丁寧に対応するのは的確だと思う。この事業については、これからももっと反響があると思う。

【会 長】40代、50代が再婚ブームとのことだが、この事業のイベントには年齢制限があるため、高齢の方のことを考えると別のイベントを考えなければいけない。新潟市の自治会でも婚活の取組を始めたが、年齢制限があるため、高齢でも参加できるイベントを開催してほしいという意見があった。結婚せずに年齢制限を超えている人も多いので、再婚だけではなく、初婚の人に対する対応も必要である。

【事務局】昨年度、40代の方を対象にしたイベントを開催した。また、個別相談については、年齢が高い人が参加される傾向にある。

【委 員】思いつきではあるが、「訳あり婚活事業」もあってもいいのではないか。

【会 長】今はコンピューターで結婚相手を見つけることも行われているが、自分や周囲の人よりも信頼できるから利用が多いのか。

【事務局】コンピューターを利用して結婚相手を見つける場合、自分の希望に合った人を選ぶことができるので、ハードルが低く感じられる方もいるということだと思う。

【委員】最近は「ゲーム婚」もある。私の従兄弟が、二回り年下の女性とゲームで出会い結婚した。一步間違えば怖いこともあるかもしれないが、二回りも年齢の差がある人と結婚でき、良いことだと思う。

【事務局】本事業については、県内でも定住自立圏の取組の中で高い評価をいただいております、昨年は内閣府からも視察に来ていただいた。この事業は、定住自立圏の代表的な取組として、今後も続けていかなければならないと考えている。

【委員】確実に事業成果が上がっていると思うので、他県や他市町村からも注目されていくと思う。また、人生100歳まで生きると言われている中で、60代70代でも若手と考え、もっと取組を広げられるかもしれない。

【会長】高齢の方の場合は、結婚という言葉では表せない。生物学的に子孫を残すことではなく、家庭を作り、二人で支え合って幸せに暮らすという、これまでとは違った発想で出会いを提供していくことになる。一人暮らしより、二人で暮らしている方が幸せな気分になれると思うので、健康寿命も上がる可能性があるし、他にも間接的に効果が出てくるのではないかと。

【委員】孤独死の防止にもなる。

<Ⅲ圏域マネジメント能力の強化>

【事務局】

※「Ⅲ圏域マネジメント能力の強化に関する取組」の進捗状況について説明

【会長】

※委員からの意見聴取

<No. 21「男女共同参画推進事業」について>

【会長】本事業の課題は、若い世代に広げていくことである。若い世代の人は、家庭の忙しさにより講演会の参加が難しいことも考えられるが、参加してもらえれば学ぶこともある。まずは参加しようという気になってもらうことが課題である。

「(2) 新たな連携事業の検討について」

【事務局】

※新たな連携事業の検討状況について説明

【会長】

※委員からの意見聴取

<移住セミナー・移住体験ツアー圏域実施事業>

【委員】本事業は外国人を対象としているのか。

【事務局】外国人に限らず、圏域外の方を対象としている。

【会長】本事業は、定住者を増やす取組で、定住自立圏の目的に直接関わってくる重要な取組だと思うので、魅力ある圏域を発信し、事業を進めていただきたい。

<在住外国人支援事業>

【会長】本事業については、在住外国人の割合が高い聖籠町が、様々な面で経験豊かだと思うので、どのようなことが大きな問題となっているか、また効率の良い伝達方法などお聞きできればいいと思う。

【事務局】今回、聖籠町が連携に加わっていない理由は、聖籠町の在住外国人約 230 名の中で、9 割以上の方が東港の会社の研修生だからである。まずは東港の企業の協議会とタイアップし、支援していきたいと考えている。

【会 長】在住外国人の方が共同体の中で上手く生活できないと、本人も不便だが、元々地域に住んでいる方にとっても摩擦の原因になる可能性がある。本事業は、間接的には元々地域に住んでいる人への支援にもなる。

【事務局】胎内市においても在住外国人支援のニーズはあるが、胎内市単独では難しいため、定住自立圏と一緒に取り組めればと考えている。また、この事業をきっかけに、圏域の在住外国人同士の繋がりになればと考えている。

【会 長】まさに、定住自立圏として連携して取り組むということであり、本事業が在住外国人の方の色々な情報交流の場になれば良いと思う。

【委 員】防災についても、日本語だけではなくて、3、4か国語で資料を用意する、またはピクトグラムなどの、言葉ではなく、目で見てわかるようなものが必要だと思う。

【会 長】それでは、説明のあった 2 事業については進めていただきたい。

※議事終了

○閉会